西日本ネットワーク　中国・四国・九州・沖縄

福岡支局
〒812-0011
福岡市博多区博多駅前4丁目14番1号
深見ビル
TEL（092）472−3887
FAX（092）472−3888

木下製作所

シリコン端材再利用

電炉技術活用　特殊鋼材料に

【広島】鋳物メーカーの木下製作所（本社＝広島市南区、木下潔社長）は、自社開発の電炉技術を活用して、太陽電池の製造工程で発生するシリコンの切削端材を再利用する技術を開発する。不純物を除去して、特殊鋼や半導体の材料への利用をめざす。太陽電池は全国で増産が進んでいるが、材料を有効活用する技術を確立することで、事業のすそ野拡大につなげる。

基幹となるのは、自社開発による電炉を使って不純物を取り除く技術。シリコンの切れ端を集めて、電炉で酸化物などを取り除き、シリコンもしくはシリコン化合物として取り出す。特殊鋼や半導体の材料などへの活用を見込んでいる。同社では、これまで金属だけを対象としてきた電炉技術をシリコン製品にも応用できると判断した。

シリコンはワイヤソーで薄く切断する工程で鉄粉や砥石の粉と混じり、廃棄処分されているものが多い。同社では材料の再利用余地があるとみて、事業化をめざす。広島市産業振興センターや東洋電化工業（高知市）と組み、共同研究を進める。国の助成事業にも選ばれた。再生品の用途開発や価格などの調査も並行して行い、2012年度以降の事業化をめざしている。

木下製作所は1946年創業。不純物を除去して、ダグタイル鋳鉄を製鉄する特殊炉「KS式電気炉」を自社開発。全国でもいち早くダグタイル鋳鉄の製造に乗り出した。近年ではスチール缶や船舶などの解体時に発生する鉄スクラップを原料に鋳物を製造する研究を進めている。新たなリサイクル技術の開発に力を入れるとともに、電気炉の国内外への拡販をめざしている。

高松で商品説明会

JFESグループ、100人参集

【高松】JFEスチールグループは16日、全日空ホテルクレメント高松で「JFEスチールグループ商品技術説明会」を開催、100人が参集した。

冒頭、依田裕二・JFEスチール四国支社長＝写真＝があいさつ。近況を「ようやく春が来たような気もするが、期待していたほどよい感じはない」として、「人がいるところに必ず需要あり。なければ需要を見いだし、一層がんばっていきたい」と述べた。

続いて、JFEスチールおよびグループ各社が商品や技術を紹介した。▽JFEスチール＝建築基礎用高強度杭、鋼管杭工法「Super KING工法」▽JFE建材＝セーフティらせん梯子、新型Jースリットえん堤▽JFEエンジニアリング＝地中熱利用空調システム、ネオホワイト空調システム▽JFEシビル＝メタルロード工法▽JFE商事テールワン＝アクアテール（施工編）▽JFEテクノリサーチ＝グリーンファクト（金属材料の出張分析）。

関西機械要素技術展に出展

しまね産業振興財団

【松江】しまね
振興財団は10月6
ら8日までの3日
インテックス大阪
催される「関西機
素技術展」に出展
財団の呼びかけに
て集まった金属部

中国三鉄会　カープに熱い声援

【広島】三井物産および三井物産スチールの中国地区の鉄鋼取引先で組織する中国三鉄会（会長＝杉原由太郎豊正工業社長）は16日、マツダスタジアムでプロ野球ナイター「広島－中日戦」を観戦、会員ら66人が参加し、地元カープに熱い声援を送った＝写真。

冒頭、冨田耕司三井物産スチール中国支店長は「きょうはいい天気で心地よい風も吹いている。しっかり楽しんで帰っていただきた
い。カープはいま
ころ中日に11連敗
いる。みんなで応
てぜひ勝つ試合を
い」とあいさつ。
て長原光男三井物
国支社長が「昨年
て観戦会を催した
その時はカープが
した。
来ると
ること
いが、
会の観
はカー
勝つこ
なっ
る。ぜ
を二つ
て応援
いただ
い」と
を誘い

スウェーデン鋼本格販売

共和工業所　認定工場めざす

【倉敷】生産設備製作や鋼材販売を手掛ける、共和工業所（本社＝岡山県倉敷市松江4−2−3、石本隆一社長）は、スウェーデン鋼の販売を本格化する。スウェーデンスチール社（以下SSAB社）との直接取引を開始、同社の耐摩耗、高張力鋼板の加工販売を始めた。産業機械用に需要を開拓、展開を進めていく。

SSAB社の耐摩耗鋼板「HARDOX」（ハルドックス）や高張力鋼板の「DOMEX」（ドーメックス）、「WELDOX」（ウェルドックス）などを扱う。ダンプカーの荷台の内張部材、重機の外装部分など硬度や強度が求められる部分での利用を見込んでいる。従来のSS材との比較で約3分の1程度の重量で同等の強度を持つことができるという。厚みが抑えられ、軽量化できる。

販売だけでなく、難加工材とされるスウェーデン鋼の切断、溶接、穴開け、曲げ、機械加工など既存設備で行う。薄物を中心に手掛けていく。板厚100ミリ程度にまで対応するという。

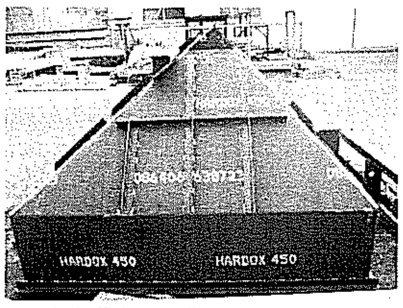
スウェーデン鋼の注文には問い合わせがあった際にスポットで対応していたが、昨秋にSSAB社との協議で直接取引ができるようになり本格的に扱いを始めた。国内では大阪と九州で販売する業者があり、共和工業所は、これまで仕入れなどでつながりがあった。

今後は、実績を重ねながら2年程度かけてSSAB社の認定工場「ウェアパーツサプライヤー」の取得をめざす。勉強会も定期的に行うなどしてスキルアップを図っている。認定取得で海外のメンバー企業との技術交流や情報交換もできる。

また、自社で受注する機械部品にもスウェーデン鋼の加工品を取り入れ、顧客に提案できるようにして、生産設備受注との相乗効果にもつなげたい考え。

11月には上海で開催される国際工業博覧会に参加する。岡山県が構えるブースで出展する。また、自動車業界にも、部品メーカーなどで採用をめざす。

同社は1955年設立。鋼材販売、機械設備の設計製作、機械加工部品製作が業務の3本柱。このうち、鋼材販売は売り上げ全体の約40%。鋼材販売の年間の扱い量は約2400トン。スウェーデン鋼は3年後をめどに扱い全体の10%程度にまで育てていく。

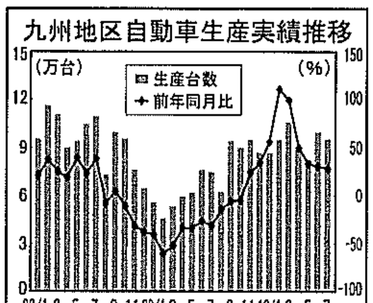


さまざまな産業分野での用途が見込まれる（写真はホッパー）

本社工場

7月九州　自動車生産28%減

九州経済産業局が発表した九州地区自動車生産実績によると、7月の自動車生産実績は9万5638台で前年同月比28・0%減となった。エコカー減税および補助金制度の効果で依然として高い生産水準にある。



JFE商事直系のコイルセンター、水島鋼板工業（本社＝倉敷市、難波正範社長）は、三菱自動車工業水島製作所をメーン顧客に、レベラー1基、大型スリッター2基、TWBライン1基を備え、熱延、冷延、表面処理鋼板を加工する。取り巻く環境として、自動車の生産台数は昨年度に比べ回復傾向にあるが、一方でエコカー補助金制度の終了、円高、海外経済の減速など懸念材料もある。難波社長に今期（2011年3月期）の加工[illegible]

加工に特化している兄弟会社の水島メタルプロダクツも三菱自工水島の生産台数増などにより、加工量（10年12月期）は当初計画より10%程度上振れすると予測している。エコカー補助金制度の終[illegible]

了や円高、海外経済の減速など不安材料があり、自動車向けの需要減も懸念されてはいるが足元、三菱自工岡崎のアウトランダー応援などもあり、加工は当初計画よりも増える見通しだ」[illegible]

――昨年度の設備投資として基幹システムの全面更新を行い、JFE商事による新販売流通システムと組み合わせた板取りシステムを4月から本格的に立ち上げた。

「自動的に母材を選定[illegible]

どを行う。加えて昨年度から実施しているスクラップボックスのタッチレス化を進める。昨年度は3レーンのタッチレス化を完了したが、本年度は新設と改良で5レーンを行う予定だ。3年先をめ[illegible]

し、スペシャリストを育成できる。そこへ商社のスタッフが入ることで、コイルセンター業務に日常触れながら、加工知識や労務管理知識などを学び、それをまた商社機能の中で生かしていくようなことはできると思う。[illegible]

イッチの二重切りなど、しかるべき対策を講じている。しかし、新たな標準書が出来上がったからと言って、それで100%事故が防げるわけではない。思わぬところに落とし穴がある。そのために危険がどこに潜んでい[illegible]

10年度当初予算に見る

環境・リサイクル事業

北九州・福岡

【北九州市】▼低炭素先進モデル街区形成推進事業1142万円＝小倉北区城野地区において、基盤整備の段階から総合的な低炭素技術・方策を導入し、先進的なCO$_2$排出削減を実現する低炭素先進モデル街区形成を図るため、実証実験などを行いながら、整備計画を策定する。

都心部で持続可能
市環境創造に向け
デストリアンデッ
の太陽光パネル
（グリーンニュー
ール基金活用）等
う。

▼低炭素型の街
り事業（仮称）グリ
エコハウス整備
（新規）4100
＝環境モデル都
「見える化・感じ